

# 気まぐれ通信

平成29年11月22日 第89号  
発行者 有限会社津口ファーム鶏卵部

## 第14回日本たまご研究会

EGG SCIENCE FORUM

11月1日京都女子大学で開催されました。この会の会長である松田治男広島大学名誉教授の挨拶で始まり、基調講演「鶏の歩んだ道」と題して広島大学山本教授から、鶏の壮大な歴史の話をお聞かせいただきました。鶏の祖先野生種は、セキショクヤケイで家畜化されたのは、紀元前2500年とも6000年とも言われています。モヘンジョダロの遺跡で鶏の脚骨が発見されています。鶏はアジアから世界各地に広まったとのこと。世界中で鶏のいない国（場所）はバチカン王国と南極の2か所。このあと、近畿大学の多賀淳彦学部准教授から脱気水（溶存気体を除去した水？）を飲ませた鶏が産んだ近の鶏卵（近大発たまご）について紹介がありました。講演の3番目は、ネット上で「たまご博物館」を開設されて自ら館長として知られる高木伸一様より日本の食文化であるたまごかけごはん（TKG）の紹介がありました。是非皆様もこの「たまご博物館」をネットで訪問されてはいかがでしょうか。業界人でない方が、たまご好きだけでこんなに素晴らしい博物館を開設されているのは驚きです。

講演の4番目は、卵の鮮度と卵黄膜強度について京都女子大学の八

田一教授より、卵黄膜の強度の重要性についてお聞かせいただきました。八田先生は、よくテレビに出演されています。最後の公演は、錦鯉の穴あき病予防に卵黄抗体が有効である研究発表がありました。

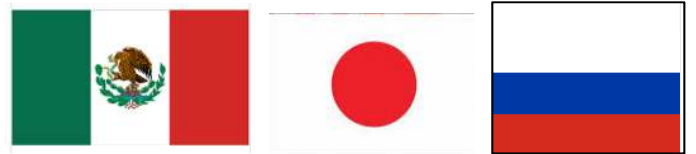
全国から約300名の大学、公的機関、薬品会社、飼料メーカー、鶏卵生産者、鶏卵販売業者など幅広い参加者が熱心に講演を聞いておられました。



## 1人当たりの鶏卵消費量

## 日本は331個で2位

国際鶏卵委員会の発表によると2016年の各国の1人当たりの鶏卵消費量の一番多い国は、メキシコの371個、続いて日本の331個、3位はロシアの295個、4位以下は、中国、アルゼンチン、米国、コロンビア、デンマーク、カナダ、と続いて10位は235個のオーストリア、ドイツ、オーストラリア、ニュージーランドの4か国が同数であった。栄養面で最高のたんぱく質供給源であり、各種のミネラル、ビタミンを含む卵は健康面でも欠かせない食品として科学的な評価が高まると同時にコレステロールの摂取基準値も各国で撤廃されるようになって卵の良さが広く消費者に容認されつつあり、多くの国が増加傾向にあります。



## 本の紹介

本屋さんで「たまサン」という表題が目にとまりました。サンドイッチの代表「たまごサンド」分厚いたまご焼きをはさんだサンドイッチが最近、人気とか！ 実用性抜群の50レシピを紹介した本です。宝島社より 販売価格994円でした。



### 【編集後記】

雪の便りが聞こえてきました。段々寒くなりますのでお身体にはお気をつけ下さい。